

事前評価報告書

総合理工学研究機構運営委員会 平成27年10月16日(金)

研究課題	モモ・ブドウの肥大促進技術の確立とブランディングに関する研究	
研究期間	平成28年度～30年度	
	評価項目	平均点
	研究の背景	4.0
	研究目的の妥当性	4.0
	研究内容の合理性・新規性	3.8
	研究予算の妥当性	3.3
	目的達成の可能性	4.3
	期待される研究成果	3.5
	予備研究の状況	4.3
	総合評点	3.9
<p>本研究は、モモの大玉、ブドウの大粒を生産する技術の確立とその価値を利用して有利な販売に繋げることを目指すものであるが、研究の実施にあたっては、国内での産地間競争が激しいことから他産地との差別化を如何に図るかが重要であり、単に大きい、甘いだけでなく、機能性成分などこれまでに行われていないような視点から付加価値を高める工夫をすべきである。</p> <p>消費者に対して県産果実に如何によりイメージを与えることができるかがポイントになることから、マーケティングやブランディングの研究に当たっては、ターゲットを高級果物店だけでなく、ネット販売などいろいろな方面から検討する必要がある。最終的には、消費者にインパクトのある商品を開発することが大切である。一方で、果実に文字や模様を入れる研究よりも品質や食味の良いものを作る方向に重点をおいて欲しい。</p> <p>当該研究は、市場経済の中では有用な商品開発になると考えられ、本県の果樹研究の実力からすれば、目標は達成可能であろう。</p>		